



ねぎぼうず

新聞

vol.
19

2026
Autumn

荒船山

一、青雲たなびく、荒船山は、

朝霧が有る無しで、天気が分かる、

夏場に日照りが続くと、雨乞い山、

山をあがめた、いにしえ人が、

里に祭った、荒船神社。

二、朝日に映える、荒船山の、

山頂は、平らで心もなごむ、

湧き水の流れが、神秘を告げる、

北のトモの絶望は、山里を一望、

絶望の眺めで、登山の疲れが解消。

三、校歌に歌われて、登山の疲れが解消、

遠方では、慈愛に満ちた母の姿、

近くでは、たくましい父親に思える、

紅葉や、雪化粧で、季節を知らせ、

見る人を、癒してくれる、荒船山。

詩・高瀬とくひろ



長い間の侵食によって形成されたテーブルマウンテンの荒船山。

「女性村を 下仁田の未来を開く拠点に」

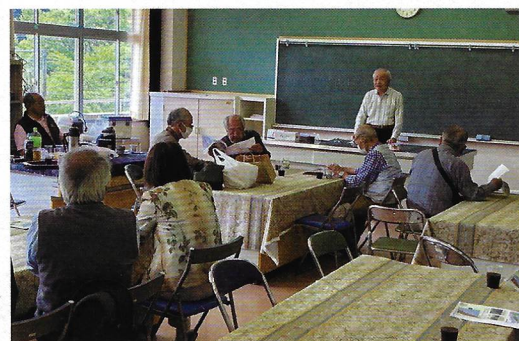
黨 勝司

里見哲夫先生の「遊びと学びの自然教室」は女性村ねぎぼうず館で定期的に開講されるようになりましたが、96歳になられた里見先生が毎回登壇されるわけではありません。今は里見先生の教え子たちが自然教室を受け持っています。私もその一人で、「ぐんま鉱山研究会」の副会長として登壇させていただくことがあります。下仁田はジオパークや荒船風穴など観光資源が豊富でパンフレットもたくさん配布されていますが、不思議なことに「中央構造線」のことは一切触れていません。「中央構造線」は学校で習いますから日本人なら誰もが記憶している言葉です。観光客誘致につながるインパクトがあると思いますが、残念ながら情報発信は手薄です。

「中央構造線」とは九州東部から関東へ横断する世界第一級の断層のことです。南牧川と合流する鐮川の主流に下仁田諏訪神社があります。神社の対岸の川床は日本で唯一、中央構造線の割れ目が見られる場所なのですが、まったく周知されていません。「断層」は地震が発生すると必ず取り沙汰される日本人共通の懸念事項です。私は女性村をベースにこれからも「中央構造線」の情報発信していこうと考えています。

女性村は自然科学分野だけではなく、地元の文化芸術の情報発信基地でもあります。それが下仁田の過疎化の歯止めになると私は信じていますが、さらに迅速に進めるには行政や地元住民の協力は不可欠です。

女性村のある本宿ではお祭りをやらなくなり、屋台も獅子舞いも倉庫で眠っています。本宿だけではなく、近隣の根小屋や南野牧の屋台や獅子舞いも同様です。それらを女性村の校庭に集めて合同で祭りを開催してみたらどうか。本宿は宿場町です。から気質的には開放的です。なにかきっかけがあれば大きな変化が起こるはずと、近くの和菓子店・古月堂の主人をはじめ幼



「遊びと学びの自然教室」で講義する黨氏。